

アメリカ合衆国の独立とフランス革命

今回学ぶこと

今回は18世紀末の2つの革命について学ぶ。イギリス領アメリカ植民地では、財政を立て直すために課税を強化する本国に対する不満が高じ、戦争が勃発した。1776年には人民主権をうたう独立宣言が発表され、1783年には植民地側が勝利して独立が達成された。他方、財政難に陥ったフランスでも課税強化に反発した貴族や聖職者が三部会の開催を要求、1789年には国王の弾圧を警戒するパリの民衆が蜂起して革命が始まった。しかし、大規模な干渉戦争のなかで革命は混乱し、ナポレオンの登場後、帝政がしかれることになった。

調べておこう・覚えておこう

- 独立戦争前のイギリス領アメリカ植民地は13に分かれており、それぞれが独自の発展を遂げていた。産業や社会のあり方、宗教などにどのような違いがあったかを調べてみよう。
- アメリカの独立とフランス革命の背後には、絶対王政を批判する思想の流れが存在した。アメリカの独立宣言とフランスの人権宣言の内容を調べて、その特徴を考えてみよう。
- フランス革命は、国王の処刑後、さまざまな勢力が対立して混乱に陥った。対立する勢力について調べ、混乱の原因はどこにあったのか、考えてみよう。

アメリカ独立革命

イギリス領アメリカ植民地は、大農園制が広がる南部と、自営農民が多く、工業が発達した北東部などの地域差があったが、イギリス本国が課税を通じて統制を強めると、共に反発を強めることになる。1774年には大陸会議がひらかれ、翌年ついに独立戦争が勃発した。ジェファソンの起草した独立宣言では、人民の自由と平等、人民主権がうたわれ、ここに近代初の共和国が誕生する。

1787年に制定された合衆国憲法によって、三権分立に基づく政治制度が樹立され、言論や信教の自由も保障された。しかし、植民地時代から続く奴隷制は残されたために、自由と平等を掲げた共和国は出発点から矛盾を抱えることになる。また、土地を奪われることに抵抗する先住民との戦いも続けられた。

フランス革命

アメリカの独立戦争は、フランスに2つの衝撃を与えた。1つは、自由と平等を掲げた共和国の誕生が、ラファイエットなど、同じ理想を掲げる人たちを励ましたこと。もう1つは、植民地側に立って戦ったフランスの戦費がかさみ、財政難が悪化したことである。財政を立て直そうとするルイ16世は、それまで免税されていた貴族や聖職者に課税しようとするが、強い反発にあう。

1789年、ルイ16世が憲法制定を求める国民議회를解散させようとする、民衆はバスティーユ要塞を襲い、革命が始まった。その後、外国勢力と国王とのつながりを疑う革命側は、共和政の成立を宣言、1793年には国王を処刑する。これに衝撃を受けたヨーロッパ諸国は、イギリスを中心に第一次対仏同盟を結成して革命を封じ込めようとし、ヨーロッパ全域に戦争が広がることになった。

ナポレオンの台頭と没落

イタリア遠征やエジプト遠征で軍事的成功をおさめたナポレオンは、1799年に統領政府の第一統領に就任し、1804年には皇帝となってフランス革命に終止符を打った。その後も対仏大同盟（1799年、第二次が結成される）との戦いは続き、ナポレオンはイギリスを屈服させるために大陸封鎖令を出す、1812年にはロシア遠征に失敗し、1814年、パリは連合軍に占領された。翌年、ナポレオンは復活を狙うがワーテルローの戦いに敗れ、セントヘレナ島に流される。

フランス革命からナポレオンの失脚にいたるまで、ヨーロッパを巻き込んだ争乱は、各地に大きな影響を与えた。絶対王政からの解放を歓迎した各地の人々は、やがて占領者としてのナポレオン軍に反発するようになる。他方、ナポレオン法典などの法制度や、人民主権、基本的人権などのフランス革命の理念は、ヨーロッパ各地に新たな革命の種をまくことになった。さらに、中米やカリブ海諸国にも革命の影響は及んだ。

フランスの植民地であったハイチでは1791年に黒人奴隷の反乱が起こり、革命政府が奴隷解放を宣言するが、ナポレオンによって奴隷制が復活される。反発する奴隷たちは、1804年、フランスからの独立を宣言した。また、ベネズエラ、コロンビア、アルゼンチン、ボリビアなど南米諸国も、本国スペインがナポレオン軍の侵略を受ける中、次々と独立を果たした。